

賃貸経営

高齢者、障がい者、LGBTQ+ etc. 多様性受け入れの現状

誰もが心地よく暮らせる社会を目指す、ダイバーシティ（多様性）の意識が広がっていますが、賃貸業界ではまだまだ受け入れが進んでいません。高齢者、障がい者、LGBTQ+といった、いわゆる住宅弱者の割合は、2025年には全人口の約45%に達するとされており、賃貸業界においても空室対策として受け入れが急務となっています。

また、住宅弱者の多くは「入居できる物件、相談できる不動産会社が見つければ、すぐにでも住みたい」と考えているため、空室にお悩みのオーナー様にとっては、大きなメリットとなるのではないのでしょうか。人口減少が進み、空室増加に拍車がかかる昨今で、ターゲット層の拡大は、すぐできる施策の一つです。幅広い入居者のニーズへの対応は、今後選ばれる賃貸住宅としてあるべき姿とも言えるでしょう。



防災

地域の災害危険度を把握する

日本は災害大国ですが、その中で台風や豪雨は、天気予報や各種の注意報・警報などから、ある程度事前に察知することができます。大切なのは、地域の災害危険度がどの程度なのかを把握することです。それを表したのが「ハザードマップ（災害予測図）」です。ハザードマップは「国土交通省ハザードマップポータルサイト」で調べることができます。

ハザードマップから災害時にどのようなリスクがあるのかを理解することで、災害への心構えができ、迅速な避難行動につながります。



特に単身入居者は、地域とのつながりが少ないので、事前に想定される被害の状況・避難場所等を、賃貸オーナーが入居者にも知らせることが、被害を最小限に引き止めることにつながります。



国土交通省
ハザードマップ
ポータルサイト

健康

ロコモとは？

健康な生活のために筋肉を維持しよう！

「ロコモ」とは、ロコモティブシンドロームの通称です。運動器症候群とも言います。年齢とともに、骨や関節、筋肉などが衰えることで、「立つ」「歩く」といった機能が低下し、要介護になるリスクが高い状態のことをいいます。

日本整形外科学会では、左記の7つの項目のうち、1つでも当てはまれば、ロコモの心配があるとされています。ロコモを予防するために必要なことは、足腰の筋肉を維持しておくことです。該当する方は、無理のない範囲で継続的な運動を心がけ、筋肉を維持しましょう！

1. 片脚立ちで靴下がはけない
2. 家の中でつまずいたりすべったりする
3. 階段を上がるのに手すりが必要
4. 家のやや重い仕事が困難
(掃除機の使用、布団の上げ下ろしなど)
5. 2kg程度の買い物をして持ち帰るのが困難
6. 15分くらい続けて歩くことができない
7. 横断歩道を青信号で渡りきれない